

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7641004号
(P7641004)

(45)発行日 令和7年3月6日(2025.3.6)

(24)登録日 令和7年2月26日(2025.2.26)

(51)国際特許分類

F I

B 6 5 D 25/20 (2006.01)

B 6 5 D 25/20 E

B 6 5 D 51/24 (2006.01)

B 6 5 D 51/24 5 0 0

請求項の数 7 (全21頁)

(21)出願番号	特願2021-153203(P2021-153203)	(73)特許権者	592111894
(22)出願日	令和3年9月21日(2021.9.21)		ヤマトエスロン株式会社
(65)公開番号	特開2023-45029(P2023-45029A)		大阪府八尾市光町1丁目61番地
(43)公開日	令和5年4月3日(2023.4.3)	(74)代理人	100167092
審査請求日	令和6年6月7日(2024.6.7)		弁理士 鷹津 俊一
		(72)発明者	西本 淳
			大阪府八尾市光町一丁目61番地 八尾
			駅前嶋野・住友生命ビル4階 ヤマトエ
			スロン株式会社内
		(72)発明者	川浪 明日翔
			大阪府八尾市光町一丁目61番地 八尾
			駅前嶋野・住友生命ビル4階 ヤマトエ
			スロン株式会社内
		審査官	宮崎 基樹

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 取出し具付き容器

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

上向きに開口し、有底に形成され且つ横断面が略円形の内容容器部を有する容器本体と、前記内容容器部の開口部を開閉自在に覆う蓋と、縦長に形成されて取出し部と柄部とを有する取出し具とを備え、

前記容器本体は、前記内容容器部を径方向外側から囲繞する外筒部をさらに有するとともに、前記内容容器部と前記外筒部との間に、外気と連通する第1の空洞部を形成し、

前記蓋は、天板部と、前記天板部から垂設され、内周面が前記内容容器部の上部における外周面に当接して前記内容容器部と径方向に組み合わせられ且つ横断面が前記内容容器部と同心である略円形に形成される内側周壁部と、その外側に同じく垂設される外側周壁部とを有するとともに、前記内側周壁部と前記外側周壁部との間に第2の空洞部を形成し、

前記取出し具は、前記柄部が部分円筒状を成し、前記蓋の閉状態において、前記取出し部が前記容器本体に穿設される挿入孔に挿通され且つ前記第1の空洞部の内部に配置されるとともに前記柄部が前記第2の空洞部の内部に配置され、かつ、横断面において、前記柄部の内向面が前記内側周壁部の中心線を中心とする円弧を描く向きに配置されるように構成される

ことを特徴とする取出し具付き容器。

【請求項2】

前記取出し具は、前記取出し部が部分円筒状を成し、かつ、前記蓋の閉状態において、横断面において前記取出し部の内向面が前記内容容器部の中心線を中心とする円弧を描く向き

に配置されるように構成される

ことを特徴とする請求項 1 に記載の取出し具付き容器。

【請求項 3】

前記容器本体は、上下方向の途中位置において前記内容容器部から径方向外向きに延設される拡径部を有し且つ前記外筒部が前記拡径部から垂設され、

前記挿入孔は、前記拡径部を上下方向に貫通して設けられる

ことを特徴とする請求項 1 に記載の取出し具付き容器。

【請求項 4】

前記内容容器部は、横断面が略円形であり且つ前記途中位置の上部の前記外周面に雄ネジ部を有し、

前記内側周壁部は、横断面が略円形であり且つ前記内周面に雌ネジ部を有し、

前記閉状態において前記各ネジ部同士が螺合する

ことを特徴とする請求項 3 に記載の取出し具付き容器。

【請求項 5】

前記外筒部はその横断面が前記内容容器部と同心である略円形に形成され、

前記外側周壁部はその横断面が前記内側周壁部と同心である略円形に形成される

ことを特徴とする請求項 1 に記載の取出し具付き容器。

【請求項 6】

前記内容容器部は前記途中位置の下部における外周面の一部又は全部が、下方ほど径方向内向きに位置するように傾斜し、

前記外筒部は内周面の一部又は全部が、下方ほど径方向外向きに位置するように傾斜する

ことを特徴とする請求項 3 に記載の取出し具付き容器。

【請求項 7】

前記挿入孔は、長手方向が前記内容容器部の周方向と一致する横長状に形成され、

前記取出し部の横断面は偏平状に形成され、

前記柄部の横断面は、前記挿入孔の前記周方向における長さよりも長く、前記挿入孔の前記周方向の直交方向における幅よりも広く又は前記長さよりも長く且つ前記幅よりも広い

ことを特徴とする請求項 1 に記載の取出し具付き容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は容器に関し、詳細には容器本体と、蓋と、内容物を取り出すための取出し部と柄部とを有する取出し具とを備える取出し具付き容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、上向きに開口し且つ有底に形成される内容容器部を有する容器本体と、前記内容容器部の開口部を開閉自在に覆う蓋と、縦長に形成されて取出し部と柄部とを有する取出し具とを備える取出し具付き容器がある（特許文献 1）。こうした従来の取出し具付き容器は、前記容器本体が、前記内容容器部を径方向外側から囲繞する外筒部をさらに有し、前記取出し部が前記内容容器部と前記外筒部との間のスペースに収納される。また、前記従来の取出し具付き容器は、前記蓋が、天板部と前記天板部から垂設される周壁部とを有し、前記蓋が閉じた閉状態において、前記柄部が前記内容容器部と前記周壁部との間のスペースに収納される。

【0003】

この取出し具付き容器は前記取出し具を備えるため、使用者は、この取出し具を用いて前記内容容器部に充填した内容物であるクリーム状の化粧品、薬品等を前記内容容器部から取り出して身体の表面、塗布などに移して使用することができる。このとき、使用者は別途に取出し具を用意する必要がないため便利である。

【0004】

しかも、前記閉状態において、前記取出し具が前記容器本体及び前記蓋の内部に格納さ

10

20

30

40

50

れるため、使用者が前記従来の取出し具付き容器を持ち運ぶ際に前記取出し具はこの容器の外側に露出することがない。そのため、前記使用者は前記取出し具が周りに引っ掛かって邪魔になることがなく、また、前記取出し具がこの容器の外部と触れて外からのウィルス、細菌等が付着することを防ぐことができる。

【0005】

さらに、前記蓋の開状態においても前記取出し部が前記内容器部と前記外筒部との間のスペースに収納されるため、使用者は前記取出し部に付着された前記内容物に直接触れることなくこの容器を把持することができる。

【先行技術文献】

【特許文献】

10

【0006】

【文献】特開2020-179896号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

前記従来の取出し具付き容器は、取出し具の柄部が容器本体の内容器部と蓋の周壁部との間のスペースに収納される。その一方で、前記周壁部の内周面が雄ネジ部を有し、前記内容器部の上部における外周面が雌ネジ部を有して前記蓋が前記容器本体に螺合する。このとき、前記蓋の開状態においては前記柄部が前記外周面と前記内周面との間に前記柄部が挟まっている。そのため、前記外周面が前記雌ネジ部の切り欠けを設け、また、前記柄部の表面に雌ネジ部を設けることによって、前記柄部に設けられた前記雌ネジ部は、前記切り欠けがなければ前記外周面に設けられるはずであった前記雌ネジ部の代りを果たすことによって前記蓋を前記容器本体に接合している。

20

【0008】

このように、前記柄部に設けられた前記雌ネジ部が前記切り欠けに対応する前記雄ネジ部と螺合する構造は複雑である。これにより、前記外周面に設けられた前記雌ネジ部が前記切り欠けのために途切れていることから容器の設計及び製作は容易でない、前記取出し具がその柄部の前記雌ネジ部と前記周壁部に設けられた前記雄ネジ部とをかみ合わせるために前記柄部の位置を正確に合わさなければならず使用は容易でないなどの不都合が生じる。

30

【0009】

また、前記取出し部が前記容器本体内の収納スペースに密閉されるため、前記取出し部に付着した前記内容物は、前記取出し具を度々使用して収納と取出しとを繰り返すうちに前記収納スペースに滞留しがちであり不衛生である。あるいは、滞留する前記内容物が前記収納スペースに収まりきれず前記収納スペースから溢れ出る可能性もあって周りを汚すおそれが大きい。

【0010】

そこで本発明は、取出し具を格納しつつ、構造が簡素であり且つ衛生的に使用することができる取出し具付き容器を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

40

【0011】

(1) 本発明は上向きに開口し且つ有底に形成される内容器部を有する容器本体と、前記内容器部の開口部を開閉自在に覆う蓋と、縦長に形成されて取出し部と柄部とを有する取出し具とを備え、前記容器本体は、前記内容器部を径方向外側から囲繞する外筒部をさらに有するとともに、前記内容器部と前記外筒部との間に、外気と連通する第1の空洞部を形成し、前記蓋は、天板部と、前記天板部から垂設され且つ内周面が前記内容器部の上部における外周面に当接して前記内容器部と径方向に組み合わされる内側周壁部と、その外側に同じく垂設される外側周壁部とを有するとともに、前記内側周壁部と前記外側周壁部との間に第2の空洞部を形成し、前記取出し具は、前記蓋の開状態において、前記取出し部が前記容器本体に穿設される挿入孔に挿通され且つ前記第1の空洞部の内部に配置され

50

るとともに前記柄部が前記第２の空洞部の内部に配置されるように構成されることを特徴とする取出し具付き容器を提供するものである。また、前記内容容器部は横断面が略円形であり、前記内側周壁部は、横断面が前記内容容器部と同心である略円形に形成され、前記取出し具は、前記柄部が部分円筒状を成し、前記蓋の閉状態において、横断面において、前記柄部の内向面が前記内側周壁部の中心線を中心とする円弧を描く向きに配置されるように構成されてもよい。さらに、前記取出し具は、前記取出し部が部分円筒状を成し、かつ、前記蓋の閉状態において、横断面において前記取出し部の内向面が前記内容容器部の中心線を中心とする円弧を描く向きに配置されるように構成されてもよい。

【００１２】

すなわち、取出し具の取出し部が第１の空洞部の内部に配置され且つこの第１の空洞部が外気と連通するため、前記取出し具を挿入孔に挿通して前記取出し部を前記容器本体内に収めても前記取出し部は本発明の取出し具付き容器によって密閉されない。そのため、都度使用した後の前記取出し具の前記取出し部を複数回前記容器本体内に出し入れさせても、前記取出し部に付着された内容物は前記容器本体内に滞留しにくく、また、滞留したものが溢れ出る可能性が低い。しかも、外気が触れている前記第１の空洞部が湿潤な環境に置かれる虞が小さい。これらにより、使用者は本発明の取出し具付き容器の前記取出し具を衛生的に使用することができる。

10

【００１３】

また、前記取出し具の柄部が第２の空洞部の内部に配置され且つこの第２の空洞部が内側周壁部に対して内容容器部の外周面と反対側に位置するため、前記柄部は前記外周面と接することなく前記第２の空洞部に収まることができる。そのため、前記外周面と前記内側周壁部の内周面との組合せにおいて前記取出し具が介在することがなく、本発明の取出し具容器は構造が簡素である。しかも、前記柄部の外側を外側周壁部が覆うことにより、本発明の取出し具容器は前記取出し具をこの容器の外部に対して保護することができる。

20

【００１４】

さらに、前記第２の空洞部を挟む二重の周壁部である前記内側周壁部と前記外側周壁部とが同じ天板部から垂設される構造のため、本発明の取出し具付き容器の蓋は構造が簡素であり、また、例えば射出成形により合成樹脂製の前記天板部、前記内側周壁部及び前記外側周壁部を一体に成形することが可能である。そのため、前記蓋は強度が高く、効率良く製作することができる。

30

【００１５】

(２) また、前記容器本体は、上下方向の途中位置において前記内容容器部から径方向外向きに延設される拡張部を有し且つ前記外筒部が前記拡張部から垂設され、前記挿入孔は、前記拡張部を上下方向に貫通して設けられてもよい。

【００１６】

すなわち、本発明の取出し具付き容器の容器本体の挿入孔が拡張部を上下方向に貫通しており、取出し具の取出し部はこの挿入孔に挿通されて直ぐに第１の空洞部に達する。このような構造のため、前記取出し部は、前記第１の空洞部に収められるまでの間に前記容器本体に当接する機会が少ない。これにより、使用後に前記取出し部に内容物が付着した取出し具を本発明の取出し具付き容器に格納する際に、前記内容物がこの容器の所々に付いてしまう事態は低減することができる。その結果、使用者は本発明の取出し具付き容器を衛生的に使用することができる。

40

【００１７】

また、前記容器本体は前記内容容器部と、そこから延設される前記拡張部と、さらにそこから垂設される外筒部とを有して前記内容容器部及び前記外筒部の間に第１の空洞部が形成されるため構造が簡素である。これによって、例えば射出成形により合成樹脂製の前記内容容器部、前記拡張部及び前記外筒部を一体に成形することが可能である。そして、前記容器本体は強度が高く、効率良く製作することができる。

【００１８】

(３) また、前記内容容器部は、横断面が略円形であり且つ前記途中位置の上部の前記外周

50

面に雄ネジ部を有し、前記内側周壁部は、横断面が略円形であり且つ前記内周面に雌ネジ部を有し、前記閉状態において前記各ネジ部同士が螺合してもよい。

【 0 0 1 9 】

すなわち、蓋の内側周壁部の内周面と容器本体の容器部の外周面とがそれぞれ上下方向視において略円形であり且つ雄ネジ部及び雌ネジ部によって螺合するため、使用者は前記蓋を回転させることで本発明の取出し具付き容器を容易に開閉することができる。また、前記蓋が前記容器部を密閉することができ、内容物であるクリーム状の化粧品、薬品等の乾燥、劣化、異物の混入などを防ぐことができる。これによって本発明の取出し具付き容器は、簡素な構造により前記容器部を確実に密閉しつつ前記蓋を容易に開閉させることができる。

10

【 0 0 2 0 】

(4) また、前記外筒部はその横断面が前記容器部と同心である略円形に形成され、前記外側周壁部はその横断面が前記内側周壁部と同心である略円形に形成されてもよい。

【 0 0 2 1 】

すなわち、内側周壁部と外側周壁部とが上下方向視において同心円に形成されるため、蓋が容器部に対して螺着及び螺脱するときでも、前記各周壁部は容器本体に対してそれぞれ決まった円軌道を通過する。そのため、前記各周壁部は、取出し部が挿入孔に挿入されて柄部が第 2 の空洞部内に収まっている取出し具に干渉せずに回転することができる。これにより、前記蓋は前記容器本体と脱着するときでも前記取出し具によって邪魔されることがない。

20

【 0 0 2 2 】

また、前記容器本体の外筒部及び前記蓋の前記外側周壁部が上下方向視において略円形に形成されるため、前記容器部の容積と比較して、この取出し具付き容器全体の嵩を小さくすることができる。

【 0 0 2 3 】

さらに、前記容器本体の前記容器部の横断面と前記外筒部の横断面とが同心円であり、また、前記蓋の前記内側周壁部の横断面と前記外側周壁部の横断面とが同心円であるため、それぞれ前記容器本体及び前記蓋は構造が簡素であり、例えば射出成形によって容易に成形して製作することが可能である。

【 0 0 2 4 】

30

(5) また、前記容器部は前記途中位置の下部における外周面の一部又は全部が、下方ほど径方向内向きに位置するように傾斜し、前記外筒部は内周面の一部又は全部が、下方ほど径方向外向きに位置するように傾斜してもよい。

【 0 0 2 5 】

すなわち、取出し具の取出し部が第 1 の空洞部の内部に配置されるのに対して、容器部の外周面と外筒部の内周面とがそれぞれ傾斜して前記第 1 の空洞部の縦断面が下方ほど拡がるため、前記取出し部は、下方ほどそれぞれ前記容器部の前記外周面及び前記外筒部の前記内周面から離れるように配置される。これにより、使用後の且つ前記第 1 の空洞部に収まっている状態の前記取出し部に内容物が付着しているときでも、前記内容物は前記外周面及び前記内周面に付いてしまう機会が少ない。その結果、使用者は前記取出し具を格納しつつ本発明の取出し具付き容器を衛生的に使用することができる。

40

【 0 0 2 6 】

また、容器本体が下方ほどそれぞれ前記容器部の前記外周面及び前記外筒部の前記内周面から離れるように形成されるため、例えば射出成形により合成樹脂製の前記容器本体を成形するとき、これらの傾斜が抜け勾配となり金型から前記容器本体を容易に取り出すことができる。これにより、本発明の取出し具付き容器は製作に関わる構造が簡素であり容易に製作することができる。

【 0 0 2 7 】

(6) また、前記挿入孔は、長手方向が前記容器部の周方向と一致する横長状に形成され、前記取出し部の横断面は偏平状に形成され、前記柄部の横断面は、前記挿入孔の前記

50

周方向における長さよりも長く、前記挿入孔の前記周方向の直交方向における幅よりも広く又は前記長さよりも長く且つ前記幅よりも広くてもよい。

【 0 0 2 8 】

挿入孔に挿通される取出し具の取出し部が内部に配置される第 1 の空洞部は内容器部と外筒部との間の空間であり、また、同じ取出し具の柄部が内部に配置される第 2 の空洞部は内側周壁部と外側周壁部との間の空間である。これに対して、これら各空洞部同士の間位置する拡径部を貫通して設けられる前記挿入孔は横長状に形成される。これにより、本発明の取出し具付き容器の前記外筒部及び前記外側周壁部の径を小さくして前記各空間が狭くなっても必要な大きさの前記挿入孔を穿設することができる。こうして、本発明の取出し具付き容器は細くすることができ、しかも、製作に関わる構造が簡素であり容易に製作することができる。

10

【 0 0 2 9 】

また、前記取出し具が偏平状に形成される。これにより、本発明の取出し具付き容器の前記外筒部及び前記外側周壁部の径を小さくして前記各部分円筒状空間が狭くなっても必要な横断面面積の前記取出し具を挿通することができる。こうして、本発明の取出し具付き容器は細くすることができ、しかも、製作に関わる構造が簡素であり容易に製作することができる。

【 0 0 3 0 】

さらに、柄部の横断面は前記挿入孔の長さよりも長く又は前記挿入孔の幅よりも広い。そのため、前記容器本体に挿通される前記取出し具は前記柄部が、前記拡径部の、前記挿入孔周りの端縁に当接して前記挿入孔よりも深く進入することがない。こうして、本発明の取出し具付き容器は簡素な構造によって前記取出し具を下方に落下しないように収めることができる。

20

【発明の効果】

【 0 0 3 1 】

このような本発明では、取出し具を格納しつつ、構造が簡素であり且つ衛生的に使用することができる取出し具付き容器を提供することができる。また、構造が理由で製作が容易な取出し具付き容器を提供することができる。さらには、内部に各空洞部のような空間を有することにより、前記取出し具を効率良く格納しつつ合成樹脂の使用量を減らすことができ、地球環境に対する負荷の低い取出し具付き容器を提供することができる。

30

【図面の簡単な説明】

【 0 0 3 2 】

【図 1】本発明の第 1 の実施形態に係る取出し具付き容器の斜視図を示す。

【図 2】図 1 の取出し具付き容器から蓋及びパッキング材を外した状態の斜視図を示す。

【図 3】図 1 の取出し具付き容器を上下方向に分解する状態の説明図を示す。

【図 4】図 1 の取出し具付き容器の正面視における左半分の縦断面を表わす部分縦断面図を示す。

【図 5】取出し具の柄部が第 2 の空洞部に配置された状態の説明図を示す。

【図 6】(a) 図 1 の取出し具付き容器を斜め前下方から見た斜視図を示す。(b) 図 1 の取出し具付き容器の底面図を示す。

40

【図 7】図 4 の部分縦断面図の一部を拡大した部分拡大縦断面図を示す。

【図 8】図 6 b の底面の一部を拡大した部分底面図を示す。

【図 9】本発明の第 2 の実施形態に係る取出し具付き容器の底面の一部を拡大した部分底面図を示す。

【図 10】(a) 本発明の第 3 の実施形態に係る取出し具付き容器の平面図を示す。(b) 同じく取出し具付き容器の底面図を示す。

【図 11】図 10 の取出し具付き容器の正面視における左半分の縦断面を表わす部分縦断面図を示す。

【図 12】(a) 本発明の第 4 の実施形態に係る取出し具付き容器の斜視図を示す。(b) 同じく取出し具付き容器から蓋及びパッキング材を外した状態の斜視図を示す。

50

【図 1 3】図 1 2 の取出し具付き容器を斜め前下方から見た斜視図を示す。

【図 1 4】(a) 本発明の第 5 の実施形態に係る取出し具付き容器の斜視図を示す。(b) 同様に取出し具付き容器から蓋及びパッキング材を外した状態の斜視図を示す。

【図 1 5】図 1 4 の取出し具付き容器を斜め前下方から見た斜視図を示す。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 3 3 】

[第 1 の実施形態]

本発明の第 1 の実施形態を、図 1 ~ 図 8 を用いて説明する。図 1 の斜視図において 1 1 は本発明の取出し具付き容器である。取出し具付き容器 1 1 は全体に上下方向の中心線 C 1 を中心軸とする略円柱状に形成される。また、取出し具付き容器 1 1 は、外周面全体が下側ほどわずかに径大となるような傾斜面に形成されている。この取出し具付き容器 1 1 は、側面視の下側に見えている容器本体 1 2 と同じく上側に見えている蓋 1 3 とを備える。図 2 は取出し具付き容器 1 1 から、蓋 1 3 と、下述するパッキング材とを外した状態の斜視図を表わす。容器本体 1 2 及び蓋 1 3 はポリプロピレン (P P)、飽和ポリエステル (P E T) 等の合成樹脂により形成される。図においては、矢印 U の向きが取出し具付き容器 1 1 の上方を示し、矢印 D の向きが同じく下方を示す。矢印 F の向きが同じく前方を示し、矢印 B の向きが同じく後方を示す。また、矢印 L の向きが同じく左方を示し、矢印 R の向きが同じく右方を示す。

【 0 0 3 4 】

容器本体 1 2 は内容器部 1 4 を有し、内容器部 1 4 が開口部 1 5 において上向きに開口し且つ下底部分に底部 1 6 を有する。図 2 で外されている蓋 1 3 は開口部 1 5 を開閉自在に覆うことができる。容器本体 1 2 は、内容器部 1 4 の側面が上下方向の中心線 C 2 を中心軸とする略円筒状に形成される。容器本体 1 2 の中心線 C 2 は取出し具付き容器 1 1 の中心線 C 1 と一致する。

【 0 0 3 5 】

また、容器本体 1 2 は上下方向の途中位置において内容器部 1 4 から径方向外向きに延設される、中心線 C 2 を中心軸とする円環状の拡径部 1 7 を有する。この拡径部 1 7 の周囲からは、下方に垂れ下がるように外筒部 1 8 が垂設される。外筒部 1 8 は中心線 C 2 を中心軸とする略円筒状に形成され、内容器部 1 4 の前記途中位置よりも下側部分を径方向外側から圍繞する。

【 0 0 3 6 】

拡径部 1 7 には上下方向に貫通するように挿入孔 1 9 が穿設される。挿入孔 1 9 は拡径部 1 7 の平面視円環状の左向き部分に穿設される。この挿入孔 1 9 には取出し具 2 1 が挿入される。取出し具 2 1 は内容器部 1 4 に充填される内容物を取り出すため縦長に形成される。本発明の取出し具付き容器 1 1 に充填される内容物は、主にクリーム状の化粧品、薬品等であり、使用者が取出し具 2 1 を用いて内容器部 1 4 から掬うように取り出して、手、手以外の身体の一部、布地等に移して身体の表面などに塗布する。

【 0 0 3 7 】

この取出し具 2 1 が取出し具付き容器 1 1 の内側に格納される構造を図 3 の分解図により示す。図 3 は取出し具付き容器 1 1 を上下方向に分解する状態を表わす。容器本体 1 2 には挿入孔 1 9 に取出し具 2 1 が下向きに挿入される。このとき、取出し具 2 1 は長手方向が上下方向と一致するように配置される。また、取出し具 2 1 の下側部分である取出し部 2 2 が挿入孔 1 9 に挿通され、他方の、取出し具 2 1 の上側部分である柄部 2 3 が、図 2 が示すように挿入孔 1 9 よりも上方に飛び出す。柄部 2 3 は下述する蓋 1 3 の内側構造において上向きに収容される。柄部 2 3 の上端において丸まった部分を柄部上端部 2 3 a とよぶ。

【 0 0 3 8 】

図 3 の分解図においてパッキング材 2 4 を示す。パッキング材 2 4 は、例えば低発泡ポリエチレンシートに薄いプラスチックフィルムをラミネートによって被覆した多層材等のような合成樹脂材料によって形成されている。製造者はパッキング材 2 4 を蓋 1 3 の内側

10

20

30

40

50

に嵌め込む。そして、内容器部 1 4 に内容物を充填した容器本体 1 2 を蓋 1 3 によって被蓋する。このとき、パッキング材 2 4 は内容器部 1 4 の最上端と蓋 1 3 の内側との間で挟まり、開口部 1 5 のシールの役目を果たすので、商品の保管、輸送、陳列等の際に内容物の乾燥、品質劣化、異物混入等を防ぐことができる。そして、使用者は購入した商品を開封する際に、パッキング材 2 4 が嵌まったままの蓋 1 3 を開けるとともに容器本体 1 2 から内容物を取り出す。また、内容物が残った状態の容器本体 1 2 を再度蓋 1 3 によって被蓋して次の回の使用に備える。

【 0 0 3 9 】

これらのように、取出し具付き容器 1 1 は図 3 のように、容器本体 1 2 に対して取出し具 2 1、パッキング材 2 4 及び蓋 1 3 を取り付けることによって組み立てる。蓋 1 3 は中心線 C 3 を中心軸とする上下方向の略円柱状に形成される。蓋 1 3 が容器本体 1 2 と組み合わされた状態において、蓋 1 3 の中心線 C 3 は取出し具付き容器 1 1 の中心線 C 1 と一致する。

10

【 0 0 4 0 】

図 4 は取出し具付き容器 1 1 の正面視における左半分の縦断面を表わす部分縦断面図であり、蓋 1 3 が閉まった状態を示している。図 4 において、上述のように拡張部 1 7 が延設される内容器部 1 4 の上下方向の前記途中位置を図の矢印 A によって表わす。容器本体 1 2 において、この途中位置 A よりも下側の部分を容器本体下部 2 7 とよぶ。また、内容器部 1 4 において途中位置 A よりも上側の部分を内容器部上部 2 8 とよぶ。

【 0 0 4 1 】

20

容器本体下部 2 7 は、内容器部 1 4 と外筒部 1 8 とにより径方向に二重の構造を有する。これらの内容器部 1 4 と外筒部 1 8 とによって形成される空洞を第 1 の空洞部 3 1 とよぶ。第 1 の空洞部 3 1 は最上部が拡張部 1 7 によって塞がれているのに対して、最下部が、底部 1 6 と外筒部 1 8 の下端縁との間において開放されている。これにより第 1 の空洞部 3 1 は外気と連通する。

【 0 0 4 2 】

蓋 1 3 は最上部に円板状の天板部 2 6 を有する。この天板部 2 6 からは二重の周壁部 3 2 , 3 3 が下方に垂れ下がるように垂設される。蓋 1 3 はこのような内側構造を有する。これらのうち内側の周壁部である内側周壁部 3 2 は、円筒状に形成され、蓋 1 3 の閉状態において内周面が内容器部上部 2 8 の外周面に当接する。これにより、内側周壁部 3 2 が内容器部上部 2 8 に径方向に組み合わされ、その結果、蓋 1 3 は容器本体 1 2 に径方向に組み合わされる。他方の、外側の周壁部である外側周壁部 3 3 は、円筒状に形成され、内側周壁部 3 2 の外側に配置される。しかも、内側周壁部 3 2 は挿入孔 1 9 よりも径方向内側に、外側周壁部 3 3 は挿入孔 1 9 よりも径方向外側にそれぞれ配置される。これらの二重の周壁部 3 2 , 3 3 によって形成される空洞を第 2 の空洞部 3 4 とよぶ。

30

【 0 0 4 3 】

内容器部 1 4 及び外筒部 1 8 を含む容器本体 1 2 は、例えば射出成形により合成樹脂を一体に成形して形成される。また、内外の各周壁 3 2 , 3 3 を含む蓋 1 3 も、例えば射出成形により合成樹脂を一体に成形して形成される。

【 0 0 4 4 】

40

ところで、取出し具 2 1 は図 3 が示すように上下方向の途中で短手方向に膨出する一対の膨出部 3 5 , 3 5 を有する。図においては、各膨出部 3 5 が前向き及び後ろ向きに膨出する。取出し具 2 1 は、使用者がこの各膨出部 3 5 よりも上側を把持するので、各膨出部 3 5 よりも上部を柄部 2 3 とよび、各膨出部 3 5 よりも下部を取出し部 2 2 とよぶ。そして、取出し具 2 1 を取出し部 2 2 から下向きに挿入孔 1 9 に挿入するとき、前後の膨出部 3 5 , 3 5 が挿入孔 1 9 の前後に位置する拡張部 1 7 の一部に引っ掛かり取出し具 2 1 はそれ以上に下向きに進入しない。このように、拡張部 1 7 は取出し具 2 1 を膨出部 3 5 において上向きに係止する。そして、図 4 は取出し具 2 1 が上向きに係止された状態を表わしている。

【 0 0 4 5 】

50

これにより、取出し部 2 2 は、拡張部 1 7 が位置する上下方向の途中位置 A よりも下側、すなわち第 1 の空洞部 3 1 に配置される。また、柄部 2 3 は途中位置 A よりも上側、すなわち第 2 の空洞部 3 4 に配置される。これにより、蓋 1 3 が閉じられた状態において、取出し具付き容器 1 1 の途中位置 A よりも上側部分には、内容器部上部 2 8、内側周壁部 3 2、柄部 2 3 及び外側周壁部 3 3 が内側から順に配置される。柄部 2 3・内容器部上部 2 8 間及び柄部 2 3・内側周壁部 3 2 間にはそれぞれ第 2 の空洞部 3 4 の空間が介在する。こうして、柄部 2 3 は二重の周壁部 3 2、3 3 に干渉せずに第 2 の空洞部 3 4 に配置される。図 5 には、蓋 1 3 が閉められたときに、点線で表された取出し具 2 1 の柄部 2 3 が第 2 の空洞部 3 4 に配置された状態の説明図を示す。図 5 には取出し具 2 1 を見易くするため容器本体 1 2 及びパッキング材 2 4 が表わされていない。

10

【 0 0 4 6 】

なお、使用の前においてパッキング材 2 4 は、内容器部 1 4 の最上端と天板部 2 6 との間において上下方向に挟まれていて、内容器部 1 4 の内側と外気とを遮断する。また、先述の通りパッキング材 2 4 は蓋 1 3 の内側に嵌まり込むので、蓋 1 3 が容器本体 1 2 に対して開閉を繰り返しても、閉じた状態において内容器部 1 4 の内側と外気とを遮断することが可能である。

【 0 0 4 7 】

このような構成により、図 6 (a) の斜視図が示すように、本発明の取出し具付き容器 1 1 は取出し具 2 1 の取出し部 2 2 が第 1 の空洞部 3 1 の内部に配置され且つこの第 1 の空洞部 3 1 が外気と連通するため、取出し具 2 1 を挿入孔 1 9 に挿通して取出し部 2 2 を容器本体 1 2 内に収めても取出し部 2 2 が密閉されない。また、図 6 (b) は取出し具付き容器 1 1 の底面図を表わす。図 4 及び図 6 (a) (b) のように、容器本体下部 2 7 には、内容器部 1 4、取出し部 2 2 及び外筒部 1 8 が内側から順に配置される。取出し部 2 2・内容器部 1 4 間及び取出し部 2 2・外筒部 1 8 間にはそれぞれ第 1 の空洞部 3 1 の空間が介在する。すなわち、内容器 1 4 と外筒部 1 8 との間に挟まれている第 1 の空洞部 3 1 においては、取出し部 2 2 が内容器 1 4 と触れずに且つ外筒部 1 8 と触れない。そのため、都度使用した後の取出し具 2 1 の取出し部 2 2 を複数回容器本体 1 2 内に出し入れさせても、取出し部 2 2 に付着された内容物は容器本体 1 2 内に付きにくく且つ滞留しにくい。そして、滞留したものが溢れ出る可能性が低い。しかも、外気が触れている第 1 の空洞部 3 1 が湿潤な環境に置かれる虞が小さい。これらにより、使用者は本発明の取出し具付き容器 1 1 の取出し具 2 1 を衛生的に使用することができる。

20

30

【 0 0 4 8 】

さらに、本発明の取出し具付き容器 1 1 の容器本体 1 2 の挿入孔 1 9 が拡張部 1 7 を上下方向に貫通しており、取出し具 2 1 の取出し部 2 2 はこの挿入孔 1 9 に挿通されて直ぐに第 1 の空洞部 3 1 に達する。このような構造のため、取出し部 2 2 は、第 1 の空洞部 3 1 に収められるまでの間に容器本体 1 2 に当接する機会が少ない。これにより、使用後に取出し部 2 2 に内容物が付着した取出し具 2 1 を取出し具付き容器 1 1 内に格納する際に、前記内容物がこの容器 1 1 の所々に付いてしまう事態は低減することができる。その結果、使用者は取出し具付き容器 1 1 を衛生的に使用することができる。

【 0 0 4 9 】

40

内容器部上部 2 8 は、図 7 の部分拡大縦断面図が示すように、一部が外周面に周方向のネジ山 4 1 を有して雄ネジ部 4 2 を構成する。また、内側周壁部 3 2 は、一部が内周面に周方向のネジ溝 4 3 を有して雌ネジ部 4 4 を構成する。容器本体 1 2 に対して蓋 1 3 を中心線 C 3 周りに回転させることにより、各ネジ部 4 2、4 4 同士が螺着又は螺脱して、使用者は蓋 1 3 を自在に開閉することができる。

【 0 0 5 0 】

外筒部 1 8 は、図 6 (a) (b) が示すように中心線 C 2 を中心軸とする略円筒形状に形成される。そのため、内容器部 1 4 の横断面と外筒部 1 8 の横断面とは平面視において同心円を描く。また、内側周壁部 3 2 及び外側周壁部 3 3 は、図 5 が示すように何れも中心線 C 3 を中心軸とする略円筒形状に形成される。そのため、これらの横断面は平面視に

50

において同心円を描く。

【 0 0 5 1 】

このような構成により、使用者は蓋 1 3 を回転させることで本発明の取出し具付き容器 1 1 を容易に開閉することができる。また、蓋 1 3 が内容器部 1 4 を密閉することができ、内容物であるクリーム状の化粧品、薬品等の乾燥、劣化、異物の混入などを防ぐことができる。これによって取出し具付き容器 1 1 は、簡素な構造により内容器部 1 4 を確実に密閉しつつ蓋 1 3 を容易に開閉させることができる。

【 0 0 5 2 】

また、内側周壁部 3 2 と外側周壁部 3 3 とが平面視において何れも中心線 C 3 を中心とする同心円に形成されるため、蓋 1 3 が内容器部 1 4 に対して螺着及び螺脱するときでも、各周壁部 3 2 , 3 3 は容器本体 1 2 に対してそれぞれ決まった円軌道を通過する。そのため、各周壁部 3 2 , 3 3 は、取出し部 2 2 が挿入孔 1 9 に挿入されて柄部 2 3 が第 2 の空洞部 3 4 内に収まっている状態の取出し具 2 1 に干渉せずに回転することができる。図 5 から見て取れる通り、蓋 1 3 が中心線 C 3 を中心に平面視時計向き C L 又は反時計向き U L に回転するときでも、柄部 2 3 は第 2 の空洞部 3 4 を通る際に各周壁部 3 2 , 3 3 に干渉することがない。これにより、蓋 1 3 は容器本体 1 2 と脱着するときでも取出し具 2 1 によって邪魔されることがない。

【 0 0 5 3 】

さらに、容器本体 1 2 の外筒部 1 8 及び蓋 1 3 の外側周壁部 3 3 が平面視において略円形に形成されるため、内容器部 1 4 の容積と比較して、この取出し具付き容器 1 1 全体の嵩を小さくすることができる。これにより、内容物を充填して取出し具付き容器 1 1 を保管、輸送、陳列などするとき、内容物の充填量を確保しつつも保管・輸送・陳列に必要なスペース、手間、費用等を抑えることができる。また、取出し具付き容器 1 1 の製作のため使用する合成樹脂の量を減らし、地球環境に対する負荷を低減することができる。

【 0 0 5 4 】

また、容器本体下部 2 7 は、図 4 が示すように内容器部 1 4 の途中位置 A の下部における外周面が、下方ほど径方向内向きに位置するように傾斜する。それとともに、その外側の外筒部 1 8 の内周面が、下方ほど径方向外向きに位置するように傾斜する。

【 0 0 5 5 】

このような構成により、取出し具 2 1 の取出し部 2 2 が第 1 の空洞部 3 1 の内部に配置されるのに対して、内容器部 1 4 の外周面と外筒部 1 8 の内周面とがそれぞれ傾斜して第 1 の空洞部 3 1 が下方ほど内外に拡がるため、取出し部 2 2 は、下方ほどそれぞれ内容器部 1 4 の外周面及び外筒部 1 8 の内周面の両方から離れるように位置する。これにより、使用後の且つ第 1 の空洞部 3 1 に収まっている状態の取出し部 2 2 に内容物が付着しているときでも、この内容物は前記外周面及び前記内周面に付いてしまう機会が少ない。その結果、使用者は取出し具 2 1 を格納しつつ本発明の取出し具付き容器 1 1 を衛生的に使用することができる。

【 0 0 5 6 】

また、容器本体下部 2 7 が下方ほどそれぞれ内容器部 1 4 及び外筒部 1 8 がお互いに離れるように形成されるため、例えば射出成形により合成樹脂製の容器本体 1 2 を成形するとき、これらの傾斜が抜け勾配となり金型から容器本体 1 2 を容易に取り出すことができる。これにより、本発明の取出し具付き容器 1 1 は製作に関わる構造が簡素であり容易に製作することができる。

【 0 0 5 7 】

ところで、挿入孔 1 9 は、図 8 の底面図が示すように、前後の長手方向が内容器部 1 4 の周方向と一致する横長状に形成される。詳しくは、拡径部 1 7 の挿入孔 1 9 との境界を形成する辺縁のうち、径方向外向きに面する辺縁である内側辺縁 4 5 が、平面視において容器本体 1 2 の中心軸である中心線 C 2 を中心とする円弧を描く。また、同じく境界を形成する辺縁のうち、径方向内向きに面する辺縁である外側辺縁 4 6 が、内側辺縁 4 5 と同様に中心線 C 2 を中心とする円弧を描く。

10

20

30

40

50

【 0 0 5 8 】

他方で、取出し部 2 2 の横断面は偏平状に形成される。また、柄部 2 3 の横断面も偏平状に形成される。取出し部 2 2 の、挿入孔 1 9 に挿通した状態における径方向内向きの面である取出部内向面 4 7 は、平面視において中心線 C 2 を中心とする円弧を描く。また、同じく径方向外向きの面である取出部外向面 4 8 は、取出部内向面 4 7 と同様に平面視において中心線 C 2 を中心とする円弧を描く。取出し部 2 2 の径方向の厚みは、挿入孔 1 9 の径方向の幅よりも小さい。柄部 2 3 についても、柄部内向面及び柄部外向面が何れも中心線 C 2 を中心とする円弧を描き、また、径方向の厚みが挿入孔 1 9 の径方向の幅よりも小さい。

【 0 0 5 9 】

ここで、挿入孔 1 9 の周方向における長さである孔長さ L 1 は、取出し部 2 2 の横断面の周方向における長さである取出部長さ L 2 よりも大きい。また、孔長さ L 1 は柄部 2 3 の横断面の周方向における長さである柄部長さ L 3 よりも小さい。柄部長さ L 3 とは、取出部長さ L 2 に、取出し部 2 2 の上端から上側の膨出部 3 5 の最上端までの膨出長さ L 4 と、取出し部 2 2 の下端から下側の膨出部 3 5 の最下端までの膨出長さ L 4 とを加えた長さに相当する。上向きの膨出長さ L 4 と下向きの膨出長さ L 4 とは同長である。

【 0 0 6 0 】

このような構成により、挿入孔 1 9 に挿通される取出し具 2 1 の取出し部 2 2 が内部に配置される第 1 の空洞部 3 1 は内容器部 1 4 と外筒部 1 8 との間の空間であり、また、取出し具 2 1 の柄部 2 3 が内部に配置される第 2 の空洞部 3 4 は内側周壁部 3 2 と外側周壁部 3 3 との間の空間である。これに対して、上下方向にこれら各空洞部 3 1, 3 4 同士の間位置する拡径部 1 7 を貫通して設けられる挿入孔 1 9 は横長状に形成される。これにより、外筒部 1 8 及び外側周壁部 3 3 の径を小さくして前記各空間が狭くなっても必要な大きさの挿入孔 1 9 を穿設することができる。また、取出し具 2 1 が偏平状に形成される。これらにより、同じく前記各空間が狭くなっても必要な横断面面積の取出し具 2 1 を挿通することができる。こうして、取出し具付き容器 1 1 は細くすることができ、しかも、製作に関わる構造が簡素であり容易に製作することができる。

【 0 0 6 1 】

さらに、柄部 2 3 の長さである柄部長さ L 3 は挿入孔 1 9 の長さである孔長さ L 1 よりも広い。そのため、図 8 が示すように容器本体 1 2 に挿通される取出し具 2 1 の柄部 2 3 が、拡径部 1 7 の、挿入孔 1 9 の周方向における近傍部分である前後の孔周方向近傍 4 9, 4 9 に当接して上向きに係止され、取出し具 2 1 は柄部 2 3 が挿入孔 1 9 よりも深く進入することがない。こうして、本発明の取出し具付き容器 1 1 は簡素な構造によって取出し具 2 1 を下方に落下しないように収めることができる。

【 0 0 6 2 】

なお、柄部 2 3 の厚みは、各周壁部 3 2, 3 3 に干渉しなければ、挿入孔 1 9 の径方向の幅よりも大きくてもよい。

【 0 0 6 3 】

[第 2 の実施形態]

本発明の第 2 の実施形態を、図 9 を用いて説明する。図 9 は取出し具付き容器 1 1 の部分底面図であり、第 1 の実施形態について示した図 8 と同じ角度から見た図である。取出し具 2 1 は、取出し部 2 2 が拡径部 1 7 の位置する上下方向の途中位置 A よりも下側、すなわち第 1 の空洞部 3 1 に配置される。また、柄部 5 1 は途中位置 A よりも上側、すなわち第 2 の空洞部 3 4 に配置される。

【 0 0 6 4 】

拡径部 1 7 に穿設される挿入孔 1 9 は、前後の長手方向が内容器部 1 4 の周方向と一致する横長状に形成される。また、取出し部 2 2 の横断面は偏平状に形成される。これらに対して、柄部 5 1 の横断面は略円形に形成される。すなわち、柄部 5 1 は上下方向の中心軸を有する略円柱状に形成される。

【 0 0 6 5 】

ここで、挿入孔 1 9 の径方向における幅である孔幅 W 1 は、取出し部 2 2 の横断面の径方向における幅である取出部幅 W 2 よりも広い。また、孔幅 W 1 は柄部 5 1 の横断面の径方向における幅である柄部幅 W 3 よりも小さい。柄部幅 W 3 とは、取出部幅 W 2 に、取出し部 2 2 の左端から柄部 5 1 の左端までの部分円柱幅 W 4 と、取出し部 2 2 の右端から柄部 5 1 の右端までの部分円柱幅 W 4 とを加えた長さに相当する。左側の部分円柱幅 W 4 と右側の部分円柱幅 W 4 とは同幅である。

【 0 0 6 6 】

これにより、取出し具 2 1 を取出し部 2 2 から下向きに挿入孔 1 9 に挿入するとき、柄部 5 1 は、拡径部 1 7 の、挿入孔 1 9 の径方向における近傍部分である左右の孔径方向近傍 5 2 , 5 2 に当接して上向きに係止される。これにより、取出し具 2 1 は柄部 5 1 が挿入孔 1 9 よりも深く進入することがない。こうして、取出し具付き容器 1 1 は簡素な構造によって取出し具 2 1 を下方に落下しないように収めることができる。

【 0 0 6 7 】

その他の構成は、第 1 の実施形態と共通する。

【 0 0 6 8 】

[第 3 の実施形態]

本発明の第 3 の実施形態を、図 1 0 及び図 1 1 を用いて説明する。図 1 0 (a) の平面図において 1 1 1 は本発明の取出し具付き容器である。取出し具付き容器 1 1 1 は容器本体 1 1 2 と蓋 1 1 3 とを備える。また、取出し具付き容器 1 1 1 は、平面視において全体が左右略対称且つ前後略対称に形成される。容器本体 1 1 2 及び蓋 1 1 3 はそれぞれ全体が上下方向の中心線 C 2 及び C 3 を中心軸として形成される。中心線 C 2 及び中心線 C 3 は蓋 1 1 3 の閉状態において一致する。

【 0 0 6 9 】

図 1 0 (a) が示すように容器本体 1 1 2 の外筒部 1 1 8 は、平面図が中心線 C 2 を中心とし且つ左右方向の長軸を有する略楕円形に表わされる。すなわち、外筒部 1 1 8 は中心線 C 2 を中心軸とする楕円筒状に形成される。他方で、蓋 1 1 3 の外側周壁部 1 3 3 は、蓋 1 1 3 の閉状態における平面図が、中心線 C 3 を中心とし且つ外筒部 1 1 8 の略楕円よりも内側に配置される略円形に表わされる。すなわち、外側周壁部 1 3 3 は中心線 C 3 を中心軸とする円筒状に形成され、かつ、その直径が外筒部 1 1 8 の短軸直径よりも短い。

【 0 0 7 0 】

図 1 0 (b) は取出し具付き 1 1 1 の底面図を表わす。容器本体 1 1 2 は内容物を充填するための内容部 1 1 4 を有する。内容部 1 1 4 は図示されていない開口部 1 1 5 において上向きに開口し且つ下底部分に底部 1 1 6 を有する。内容部 1 1 4 の側面は中心線 C 2 を中心軸とする略円筒状に形成される。

【 0 0 7 1 】

また、容器本体 1 1 2 は上下方向の途中位置 A において内容部 1 1 4 から径方向外向きに延設される拡径部 1 1 7 を有する。途中位置 A は図 1 1 の部分縦断面図において図示する。拡径部 1 1 7 の内側縁は内容部 1 1 4 の外周面に沿って平面視における円形状に形成される。他方で、拡径部 1 1 7 の周囲から下方に垂れ下がるように外筒部 1 1 8 が垂設されるのであって、拡径部 1 1 7 の外側縁は、中心線 C 2 を中心とし且つ左右方向の長軸を有する略楕円形に形成される。

【 0 0 7 2 】

容器本体 1 1 2 の途中位置 A よりも下側の部分である容器本体下部 1 2 7 は、内容部 1 1 4 と外筒部 1 1 8 とにより径方向に二重の構造を有する。これらの内容部 1 1 4 と外筒部 1 1 8 とによって形成される空洞を第 1 の空洞部 1 3 1 とよぶ。第 1 の空洞部 1 3 1 は、外筒部 1 1 8 が楕円筒状に形成されるのに伴い、内容部 1 1 4 の左右に位置するスペースが広く、これらに比べて内容部 1 1 4 の前後に位置するほどスペースが狭くなる。第 1 の空洞部 1 3 1 は最上部が拡径部 1 1 7 によって塞がれているのに対して、最下部が、底部 1 1 6 と、外筒部 1 1 8 の略楕円形状の下端縁との間において開放されている。これにより第 1 の空洞部 1 3 1 は外気と連通する。

10

20

30

40

50

【 0 0 7 3 】

容器本体 1 1 2 には、拡張部 1 1 7 に穿設される挿入孔 1 1 9 に、取出し具 1 2 1 の取出し部 1 2 2 が挿通される。挿入孔 1 1 9 は平面視において内容器部 1 1 4 の左側に設けられる。そのため、取出し部 1 2 2 は、取出し具 1 2 1 が挿入された状態において、第 1 の空洞部 1 3 1 のうち比較的スペースの広い位置に配置される。

【 0 0 7 4 】

図 1 1 は取出し具付き容器 1 1 1 の正面視における左半分の縦断面を表わす部分縦断面図であり、蓋 1 1 3 が閉まった状態を示している。内容器部 1 1 4 において、途中位置 A よりも上側の部分を内容器部上部 1 2 8 とよぶ。

【 0 0 7 5 】

蓋 1 1 3 は最上部に円板状の天板部 1 2 6 を有する。この天板部 1 2 6 からは二重の周壁部 1 3 2 , 1 3 3 が下方に垂れ下がるように垂設される。内側の周壁部である内側周壁部 1 3 2、および、内側周壁部 1 3 2 の外側に設けられる周壁部である外側周壁部 1 3 3 はいずれも中心線 C 2 を中心軸とする円筒状に形成される。これらの二重の周壁部 1 3 2 , 1 3 3 に挟まれて形成される空洞を第 2 の空洞部 1 3 4 とよぶ。

【 0 0 7 6 】

拡張部 1 1 7 は側面視において外側周壁部 1 3 3 よりも径方向の外向きに突出して形成される。これにより、蓋 1 1 3 と、拡張部 1 1 7 の周囲から下方に垂れ下がる外筒部 1 1 8 を有する容器本体下部 1 2 7 とは、全体的に途中位置 A よりも上側の胴が細く形成され、途中位置 A よりも下側の胴が太く形成される。そして、拡張部 1 1 7 が上向きの段差を形成する。

【 0 0 7 7 】

取出し具 1 2 1 の柄部 1 2 3 は第 2 の空洞部 1 3 4 に配置される。そして、各周壁部 1 3 2 , 1 3 3 はいずれも中心線 C 2 を中心軸とする円筒状に形成されるため、平面視において同心円状の二重構造を構成する。これにより、蓋 1 1 3 が内容器部 1 1 4 に対して螺着及び螺脱するときでも、各周壁部 1 3 2 , 1 3 3 は容器本体 1 1 2 に対してそれぞれ決まった円軌道を通過する。このような構造のため、上で述べた外筒部 1 1 8 が略楕円筒状に形成されるときでも、各周壁部 1 3 2 , 1 3 3 は、取出し部 1 2 2 が挿入孔 1 1 9 に挿入されて柄部 1 2 3 が第 2 の空洞部 1 3 4 に収まっている状態の取出し具 1 2 1 に干渉せずに回転することができる。

【 0 0 7 8 】

その他の構成は、第 1 の実施形態又は第 2 の実施形態と共通する。

【 0 0 7 9 】

これらの構成により、取出し具付き容器 1 1 1 は途中位置 A よりも上側が下側よりも細く形成されることにより意匠性が向上する。また、容器本体下部 1 2 7 が略楕円柱状に形成されることにより意匠性が向上する上に、円柱状の場合に比べて前後方向の保管スペースを小さくすることができる。輸送、陳列などにおけるスペースについても同様である。

【 0 0 8 0 】

しかも、取出し部 1 2 2 を第 1 の空洞部 1 3 1 のうち比較的スペースの広い位置に配置することにより、取出し部 1 2 2 に付着された内容物は容器本体 1 1 2 内に付きにくく且つ滞留しにくい。これにより、使用者は取出し具付き容器 1 1 1 の取出し具 1 2 1 を衛生的に使用することができる。

【 0 0 8 1 】

なお、取出し具 1 2 1 を挿通した状態で、取出し具 1 2 2 の周りのスペースを十分に確保することができるほどに寸法に余裕があれば、挿入孔 1 1 9 は、平面視において内容器部 1 1 4 の左側以外の位置に設けてもよい。

【 0 0 8 2 】

[第 4 の実施形態]

本発明の第 4 の実施形態を、図 1 2 及び図 1 3 を用いて説明する。図 1 2 (a) の斜視図において 2 1 1 は本発明の取出し具付き容器である。取出し具付き容器 2 1 1 は全体に

10

20

30

40

50

上下方向の中心線 C 1 を中心軸とする略正三角柱状に形成される。また、取出し具付き容器 2 1 1 は容器本体 2 1 2 と蓋 2 1 3 とを備える。図 1 2 (b) の斜視図は、取出し具付き容器 2 1 1 から蓋 2 1 3 を取り外した状態を示す。

【 0 0 8 3 】

蓋 2 1 3 は、上下方向の中心線 C 3 を中心軸とする略正三角柱状に形成される。中心線 C 3 は、蓋 2 1 3 の閉状態において中心線 C 1 と一致する。蓋 2 1 3 の天板部 2 2 6 から、二重の周壁部である内側周壁部 2 3 2 及び外側周壁部 2 3 3 が下方に垂れ下がるように垂設される。これらの二重の周壁部 2 3 2 , 2 3 3 に挟まれて形成される空洞を第 2 の空洞部 2 3 4 とよぶ。内側周壁部 2 3 2 は隠れて図示されていないが、他の実施形態と同様に中心線 C 3 を中心軸とする略円筒状に形成される。外側周壁部 2 3 3 は、中心線 C 3

10

【 0 0 8 4 】

容器本体 2 1 2 は内容物を充填するための内容器部 2 1 4 を有する。内容器部 2 1 4 は開口部 2 1 5 において上向きに開口し且つ下底部分に底部 2 1 6 を有する。内容器部 2 1 4 の側面は上下方向の中心線 C 2 を中心軸とする略円筒状に形成される。中心線 C 2 は中心線 C 1 と一致する。

【 0 0 8 5 】

また、容器本体 2 1 2 は上下方向の途中位置において内容器部 2 1 4 から径方向外向きに延設される拡張部 2 1 7 を有する。この拡張部 2 1 7 の周囲から下方に垂れ下がるように外筒部 2 1 8 が垂設される。外筒部 2 1 8 は、中心線 C 2 を中心軸とする略正三角筒状に形成される。また、外筒部 2 1 8 の横断面はルーローの三角形 (R e u l e a u x T r i a n g l e) の形状を有する。そして、拡張部 2 1 7 の内側縁は内容器部 2 1 4 の外周面に沿って平面視における円形状に形成される。他方で、拡張部 2 1 7 の外側縁は外筒部 2 1 8 の上端に沿って平面視における略正三角形形状に形成される。

20

【 0 0 8 6 】

容器本体 2 1 2 には、拡張部 2 1 7 に穿設される挿入孔 2 1 9 に取出し具 2 2 1 の取出し部 2 2 2 が挿通される。この挿入孔 2 1 9 は平面視において内容器部 2 1 4 の左側に設けられる。

【 0 0 8 7 】

図 1 3 は、取出し具付き容器 2 1 1 を斜め下方から見た斜視図を表わす。容器本体 2 1 2 の前記途中位置よりも下側の部分である容器本体下部 2 2 7 は、内容器部 2 1 4 と外筒部 2 1 8 とによる径方向の二重の構造を有する。これらの内容器部 2 1 4 と外筒部 2 1 8 とによって形成される空洞を第 1 の空洞部 2 3 1 とよぶ。そして、取出し部 2 2 2 は、取出し具 2 2 1 が挿入された状態において第 1 の空洞部 2 3 1 の内部に配置される。

30

【 0 0 8 8 】

このとき、取出し部 2 2 2 は、第 1 の空洞部 2 3 1 の内部において内容器部 2 1 4 の外周面と外筒部 2 1 8 の内周面との両方から離れて配置される。そのため、取出し部 2 2 2 に付着された内容物は容器本体 2 1 2 内に付きにくく且つ滞留しにくい。これにより、使用者は取出し具付き容器 2 1 1 の取出し具 2 2 1 を衛生的に使用することができる。

40

【 0 0 8 9 】

その他の構成は、第 1 の実施形態又は第 2 の実施形態と共通する。

【 0 0 9 0 】

なお、蓋 2 1 3 が内容器部 2 1 4 に対して螺着及び螺脱するときに、各周壁部 2 3 2 , 2 3 3 が取出し具 2 2 1 に干渉しなければ、挿入孔 2 1 9 は、拡張部 2 1 7 の別の位置に穿設されてもよい。すなわち、その場合、蓋 2 1 3 が回転しても取出し具 2 2 1 の柄部 2 2 3 は第 2 の空洞部 2 3 4 の内部に留まり、各周壁部 2 3 2 , 2 3 3 に当接しない位置に穿設される。

【 0 0 9 1 】

[第 5 の実施形態]

50

本発明の第５の実施形態を、図１４及び図１５を用いて説明する。図１４（ａ）の斜視図において３１１は本発明の取出し具付き容器である。取出し具付き容器３１１は全体に上下方向の中心線Ｃ１を中心軸とする略正四角柱状に形成される。また、取出し具付き容器３１１は容器本体３１２と蓋３１３とを備える。図１４（ｂ）の斜視図は、取出し具付き容器３１１から蓋３１３を取り外した状態を示す。

【００９２】

蓋３１３は、上下方向の中心線Ｃ３を中心軸とする略正四角柱状に形成される。中心線Ｃ３は、蓋３１３の閉状態において中心線Ｃ１と一致する。蓋３１３の天板部３２６からは、二重の周壁部である内側周壁部３３２及び外側周壁部３３３が下方に垂れ下がるように垂設される。これらの二重の周壁部３３２，３３３に挟まれて形成される空洞を第２の空洞部３３４とよぶ。内側周壁部３３２は隠れて図示されていないが、他の実施形態と同様に中心線Ｃ３を中心軸とする略円筒状に形成される。外側周壁部３３３は、中心線Ｃ３を中心軸とする略正四角筒状である。第２の空洞部３３４は隠れて図示されていない。

10

【００９３】

容器本体３１２は内容物を充填するための内容器部３１４を有する。内容器部３１４は開口部３１５において上向きに開口し且つ下底部分に底部３１６を有する。内容器部３１４の側面は上下方向の中心線Ｃ２を中心軸とする略円筒状に形成される。中心線Ｃ２は中心線Ｃ１と一致する。

【００９４】

また、容器本体３１２は上下方向の途中位置において内容器部３１４から径方向外向きに延設される拡張部３１７を有する。この拡張部３１７の周囲から下方に垂れ下がるように外筒部３１８が垂設される。外筒部３１８は、中心線Ｃ２を中心軸とする略正四角筒状に形成される。そして、拡張部３１７の内側縁は内容器部３１４の外周面に沿って平面視における円形状に形成される。他方で、拡張部３１７の外側縁は外筒部３１８の上端に沿って平面視における略正形状に形成される。

20

【００９５】

容器本体３１２には、拡張部３１７に穿設される挿入孔３１９に取出し具３２１の取出し部３２２が挿通される。この挿入孔３１９は平面視において内容器部３１４の左側に設けられる。

【００９６】

30

図１５は、取出し具付き容器３１１を斜め下方から見た斜視図を表わす。容器本体３１２の前記途中位置よりも下側の部分である容器本体下部３２７は、内容器部３１４と外筒部３１８とによる径方向の二重の構造を有する。これらの内容器部３１４と外筒部３１８とによって形成される空洞を第１の空洞部３３１とよぶ。そして、取出し部３２２は、取出し具３２１が挿入された状態において第１の空洞部３３１の内部に配置される。

【００９７】

このとき、取出し部３２２は、第１の空洞部３３１の内部において内容器部３１４の外周面と外筒部３１８の内周面との両方から離れて配置される。そのため、取出し部３２２に付着された内容物は容器本体３１２内に付きにくく且つ滞留しにくい。これにより、使用者は取出し具付き容器３１１の取出し具３２１を衛生的に使用することができる。

40

【００９８】

その他の構成は、第１の実施形態又は第２の実施形態と共通する。

【００９９】

なお、蓋３１３が内容器部３１４に対して螺着及び螺脱するときに、各周壁部３３２，３３３が取出し具３２１に干渉しなければ、挿入孔３１９は、拡張部３１７の別の位置に穿設されてもよい。すなわち、その場合、蓋３１３が回転しても取出し具３２１の柄部３２３は第２の空洞部３３４の内部に留まり、各周壁部３３２，３３３に当接しない位置に穿設される。

【０１００】

以上、本発明の実施形態について例示したが、本発明はこれらの実施形態に限定される

50

ものではなく、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で種々の変更が可能である。

【 0 1 0 1 】

例えば、取出し具の取出し部は左右方向視における略長形状に限らず、内容物を掬って取り出すことができ且つ挿入孔に挿通することができれば長形状以外の形状でもよい。一例として、しゃもじのような形状であってもよい。また、取出し具の取出し具は、挿入孔に挿通することができ且つ蓋の回転を邪魔しなければもう少し立体的な形状でもよい。

【 0 1 0 2 】

挿入孔の形状は、必ずしも横長状でなくともよく、拡径部にもっとスペースがあり且つ蓋の回転を邪魔しなければもっと長さに対する幅が大きくともよい。

【 0 1 0 3 】

また、外筒部又は蓋は、平面視において円形状、楕円形状、正三角形形状及び正方形形状に限らず、蓋が容器本体に対して回転し且つ取出し部の柄部に干渉しなければ、五角形以上の多角形状でもよく、また、真円、正多角形等に限らず歪な円形状、多角形状などでもよい。多角形状の場合、例示したようなルーローの多角形に限らず、例えば角丸のような変則的な多角形状でもよい。

【 0 1 0 4 】

さらに、蓋は容器本体に対してネジ部によって螺着及び螺脱される以外にも、蓋が内容器部を確実に被蓋することができれば、例えばヒンジによって接合されてもよく、また、内嵌合又は外嵌合によって嵌め込まれるような構造でもよい。

【産業上の利用可能性】

【 0 1 0 5 】

本発明は、クリーム状の化粧品、薬品等が充填され且つこれらの内容物を取り出すことができる取出し具を備える取出し具付き容器に利用できる。

【符号の説明】

【 0 1 0 6 】

1 1 , 1 1 1 , 2 1 1 , 3 1 1	取出し具付き容器
1 2 , 1 1 2 , 2 1 2 , 3 1 2	容器本体
1 3 , 1 1 3 , 2 1 3 , 3 1 3	蓋
1 4 , 1 1 4 , 2 1 4 , 3 1 4	内容器部
1 5 , 1 1 5 , 2 1 5 , 3 1 5	開口部
1 6 , 1 1 6 , 2 1 6 , 3 1 6	底部
1 7 , 1 1 7 , 2 1 7 , 3 1 7	拡径部
1 8 , 1 1 8 , 2 1 8 , 3 1 8	外筒部
1 9 , 1 1 9 , 2 1 9 , 3 1 9	挿入孔
2 1 , 1 2 1 , 2 2 1 , 3 2 1	取出し具
2 2 , 1 2 2 , 2 2 2 , 3 2 2	取出し部
2 3 , 5 1 , 1 2 3	柄部
2 4	パッキング材
2 6 , 1 2 6 , 2 2 6 , 3 2 6	天板部
3 1 , 1 3 1 , 2 3 1 , 3 3 1	第 1 の空洞部
3 2 , 1 3 2 , 2 3 2 , 3 3 2	内側周壁部
3 3 , 1 3 3 , 2 3 3 , 3 3 3	外側周壁部
3 4 , 1 3 4 , 2 3 4 , 3 3 4	第 2 の空洞部
3 5	膨出部
4 1	ネジ山
4 2	雄ネジ部
4 3	ネジ溝
4 4	雌ネジ部

10

20

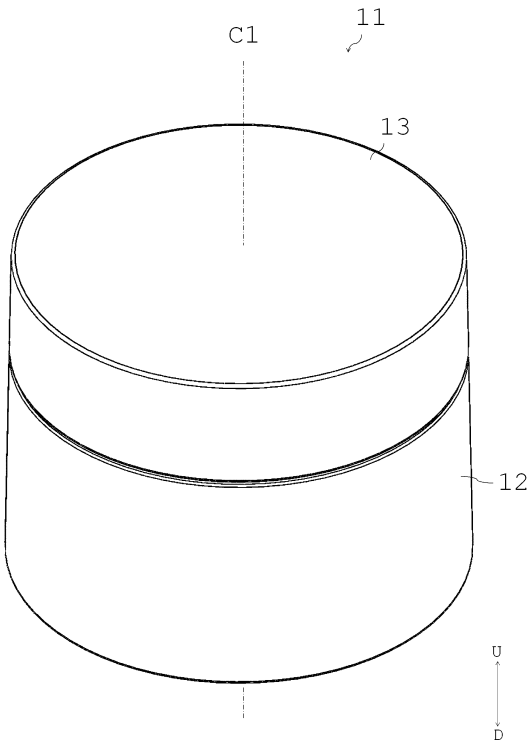
30

40

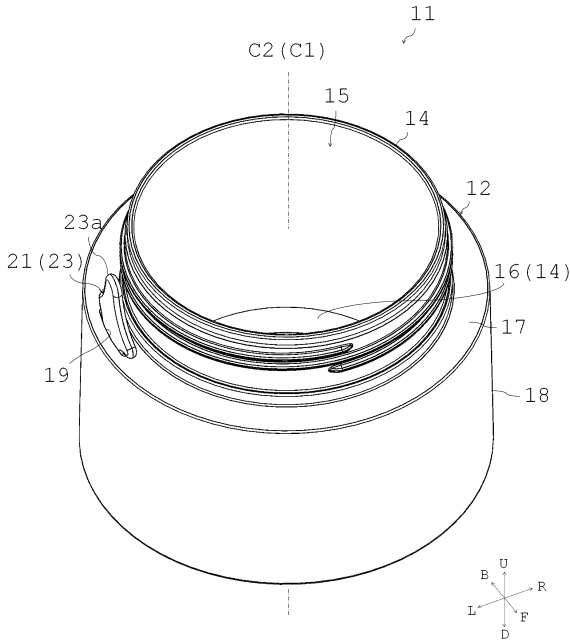
50

【図面】

【図 1】



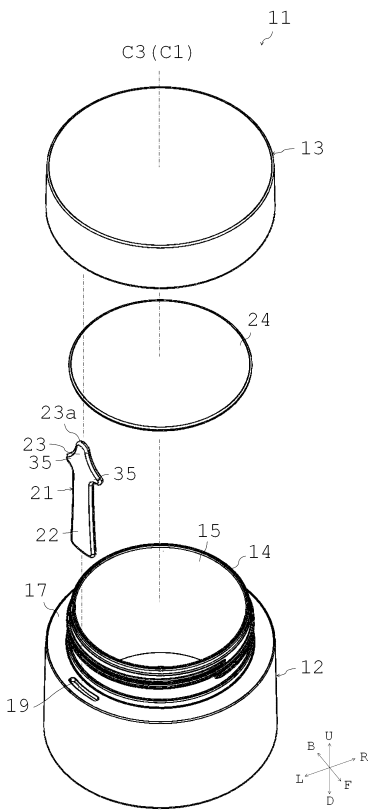
【図 2】



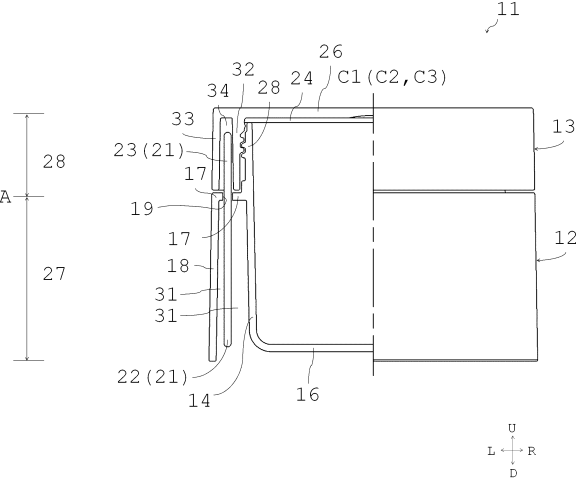
10

20

【図 3】



【図 4】

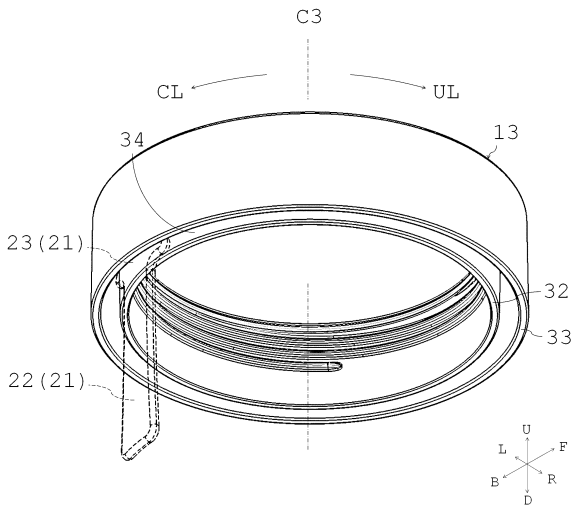


30

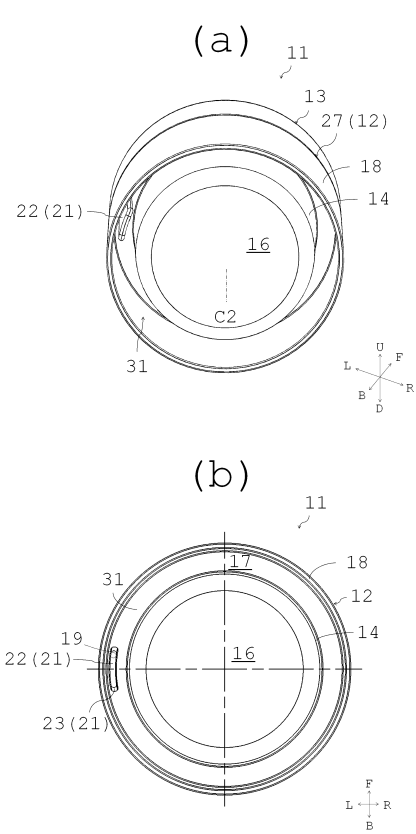
40

50

【図 5】



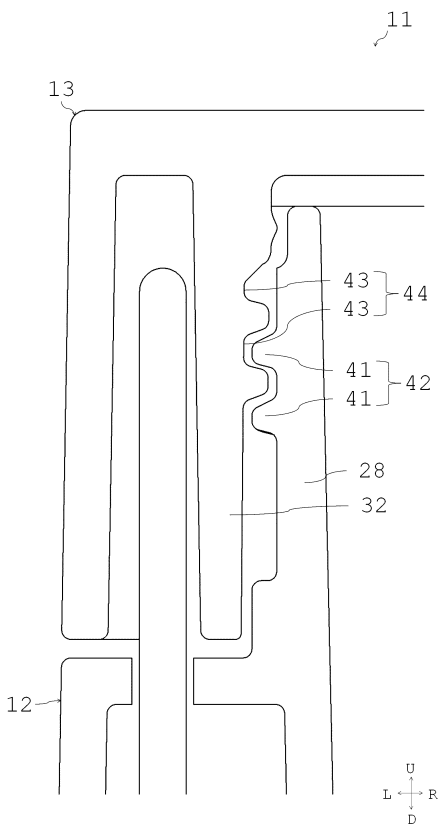
【図 6】



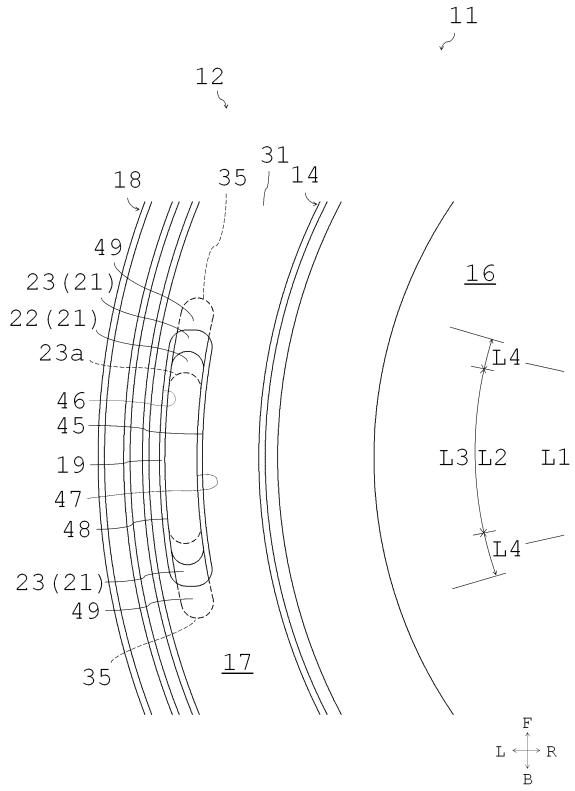
10

20

【図 7】



【図 8】

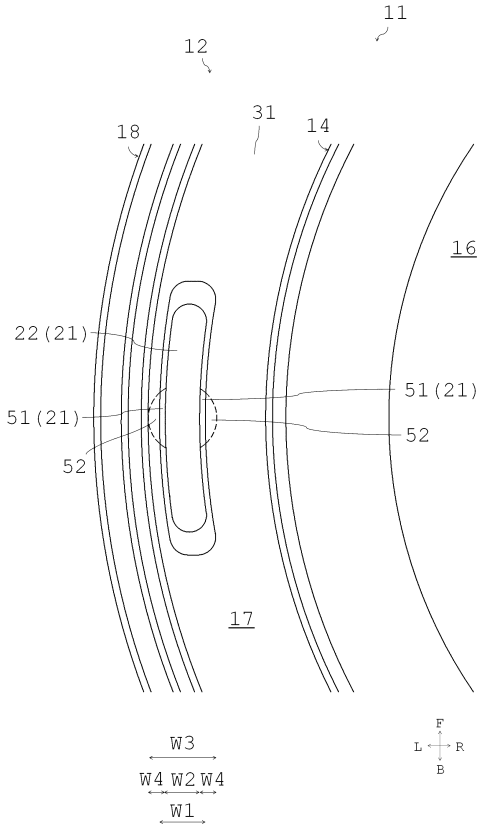


30

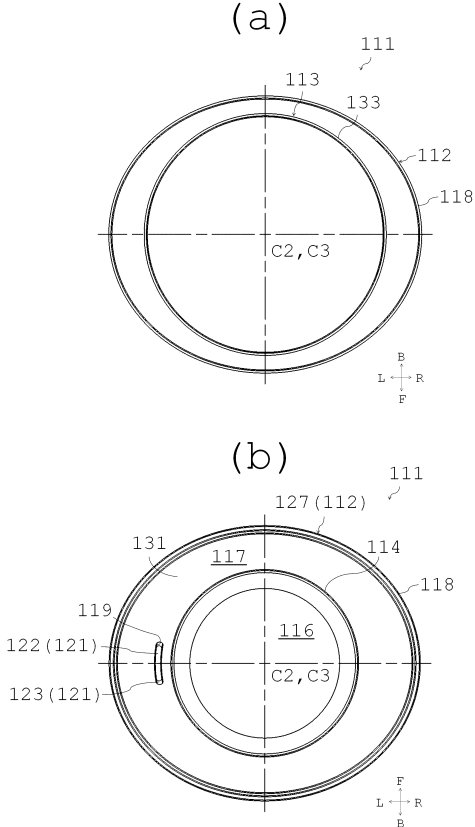
40

50

【図 9】



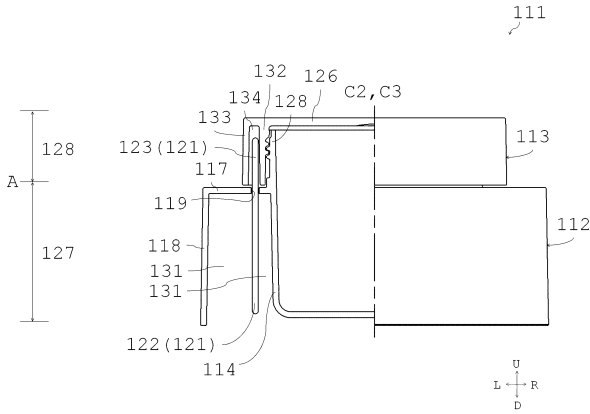
【図 10】



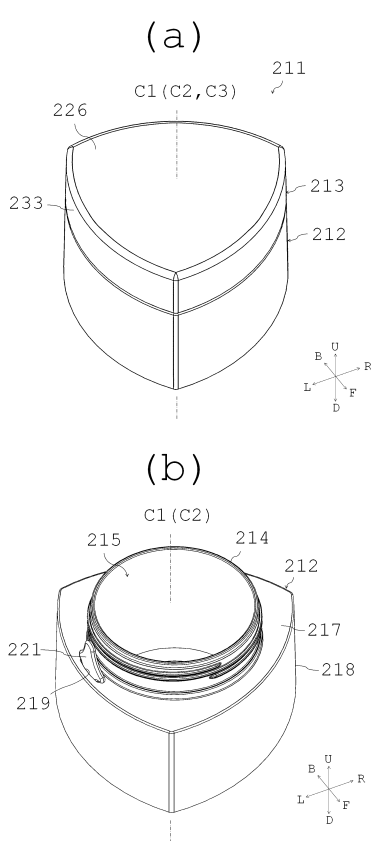
10

20

【図 11】



【図 12】

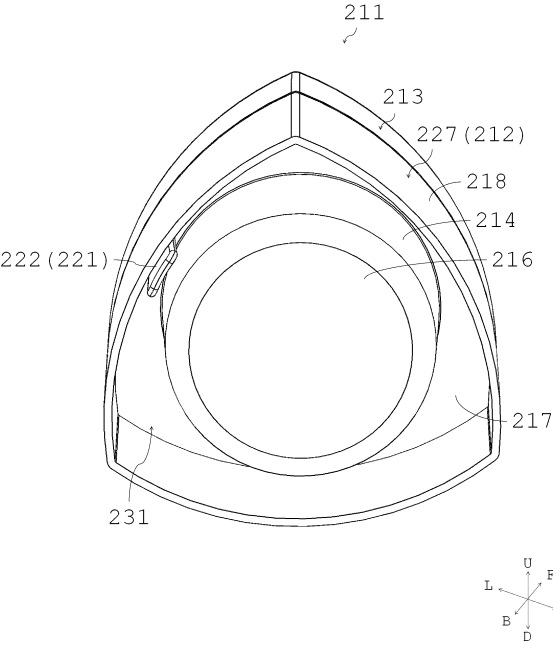


30

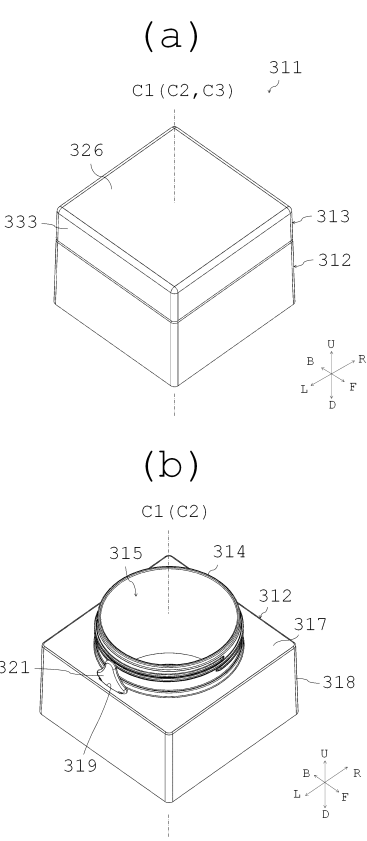
40

50

【図 1 3】



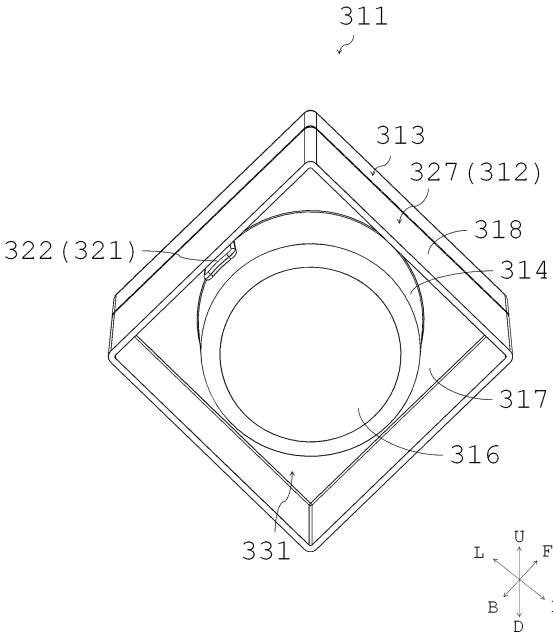
【図 1 4】



10

20

【図 1 5】



30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 1 3 - 1 3 3 1 3 6 (J P , A)
 特開 2 0 0 0 - 3 2 6 9 8 5 (J P , A)
 特開 2 0 0 9 - 1 4 9 3 1 9 (J P , A)
 米国特許出願公開第 2 0 0 5 / 0 2 6 0 0 2 6 (U S , A 1)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- B 6 5 D 2 5 / 2 0
 B 6 5 D 3 5 / 4 4 - 3 5 / 5 4
 B 3 5 D 3 9 / 0 0 - 5 5 / 1 6